



大津繪ぶし 近江八景

名にし近江の、八景を。廓さかにうつして、三井の鐘。瀬田の關所を  
いまこゝに。夕くれてらす揚屋町。のきの燈籠のものずきを、ゆ  
きみ堅田のかりねさへ。あだに粟津の晴嵐こ、やくそくかたき石  
山の、比良の雪、ぬれて色ます唐崎の。待つ甲斐もなや。きはん  
も、はやき矢走ふね。



# 菊江佛檀

笑福亭 松鶴

桂 米之助 畫

へい、え、毎々の御最負様で厚く御禮を申し上げます。餘程朝晩は凌しのぎようになりました様でござり  
ますが、日中はまだ相變あひらさずお暑い事でムります。夏は黒い物を着て陽向ひなたへ出ますと、お太陽ひんがしさんを  
除とけてまして却て涼しいのや相でごわすが、どう云ふもんか見た目が暑苦しうて感心致しまへん。矢張  
り白い物を着て歩いてなはると如何にも涼し相に見えます。尤も白いと申しましても白さに依ります  
ので、米屋はんの厚司やみな甚う涼し相にも見えまへんが、殿方なら行水上りに縮みの肌襦袢一枚、  
禪の新しい奴でも放り出して床几に腰かけて團扇でも遣やふてなはると見ても涼し相にムります。中  
は黒うても涼し相に見えるのも無い事はムりまへん。此の間私わたくしが夜晩うに天王寺の公園の近所を通り